北杜市埋蔵文化財調査報告　第５集

NISHISHIMOYASHIKI-SITE

西下屋敷遺跡

田園交流基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

２００５

北杜市教育委員会

峡北地域振興局農務部

北杜市埋蔵文化財調査報告　第５集

NISHISHIMOYASHIKI-SITE

西下屋敷遺跡

田園交流基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

２００５

北杜市教育委員会

峡北地域振興局農務部

例　　言

1．本書は、2004（平成16）年度に実施した山梨県北杜市長坂町白井沢字西下屋敷地内に所在する西下屋敷遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、田園交流基盤整備事業に伴う事前調査であり、山梨県峡北地域振興局農務部より委託を受けて長坂町教育委員会が実施し、町村合併後北杜市教育委員会が引き継ぎ、整理作業を実施したものである。

3．本書の執筆・編集は、村松佳幸（北杜市教育委員会長坂郷土資料館担当兼文化財担当）が行い、図版作成は主に、長谷川誠（旧長坂町教育委員会　学芸員）が行った。

4．発掘調査および整理作業において一部の業務を以下の機関に委託した。
基準点測量・航空測量　　(株)シン技術コンサル

5．遺構の写真撮影は長谷川が行い、遺物の撮影は村松が行った。

6．本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真等は、北杜市教育委員会に保管している。

7．発掘調査および報告書作成にあたって、多くの方々に多大なご指導、ご教示を賜った。ここに深く感謝の意を表す次第である。

凡　　例

1．掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として下記のとおりである。
遺構　調査区全体図：1/250　　住居跡：1/60
　　土坑・ピット：1/30
遺物　縄文土器：1/3　　石器：2/3または1/3

2．遺構図版中の遺物分布のマークは、各図版中に示してある。

3．遺構および遺物写真の縮尺は統一されていない。

4．遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

5．第1図は、株式会社写測2000年調整、1/25,000長坂町全図（国土地理院発行1/25,000地形図を複製したもの）を基に作成した。

6．第２図は　、国際航業株式会社1994年調整1999年修正、1/10,000長坂町全図を基に作成した。

目　　次

例言・凡例

本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第１章　調査の経緯と概要……1
　１．調査に至る経緯
　２．調査の概要
　３．発掘調査組織

第２章　遺跡周辺の環境……1
　１．地理的環境
　２．歴史的環境

第３章　発見された遺構と遺物……2
　１．基本層序
　２．住居跡
　３．土坑・ピット
　４．溝
　５．遺構外出土遺物

第４章　調査の成果と課題……4

参考文献……4

挿　図　目　次

第１図　周辺の遺跡（1/25,000）……5

第２図　調査区位置図（1/2,500）……6

第３図　調査区全体図（1/250）……7

第４図　１号住居跡……8

第５図　土坑……9

第６図　出土土器……10

第７図　出土石器……11

第８図　遺物分布……12

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧表……13

第２表　土坑・ピット一覧表……13

第３表　土器観察表……14

第４表　石器観察表……14

写　真　図　版

図版１　調査区全景（西から）、調査区全景（北から）
　　調査区全景（真上から）、１号住居跡
　　１号住炉跡

図版２　５号土坑、６号土坑、２・３号溝、調査風景
　　出土土器①、出土土器②、出土石器①
　　出土石器②

第１章　調査の経緯と概要

１．調査に至る経緯

山梨県は、農村間の交流を促進する田園交流基盤整備事業を立ち上げ、平成14年度に鳥久保集落から越中久保溜池の脇を通り、県道長沢・小淵沢線に至るまでの集落道を拡幅及び新設する計画をし、町農林業振興課を通しそのルート上の埋蔵文化財包蔵地の有無を町教育委員会に照会した。ルート上には５つの遺跡が存在することを回答したが、包蔵地以外にも遺跡がある可能性が高いと思われたので、工事予定区域は試掘調査を実施することになった。

平成15年度に試掘調査を行い、西下屋敷遺跡内で遺物と遺構が確認され、本調査の必要が出てきた。峡北地域振興局農務部、町農林業振興課、町教育委員会の三者で協議し、路線変更や工法変更等で遺跡の保存が出来ないため、本調査を実施することになった。平成16年５月埋蔵文化財発掘についての通知が提出された。

本調査は、平成16年５月13日発掘調査を開始し、６月16日終了した。

２．調査の概要

今回の調査は、1973（昭和48）年に行われた発掘調査（末木1975）に続き、第２次調査にあたる。調査面積は410㎡である。道路建設に伴う発掘調査のため調査区は東西約45m、南北に約９ｍと東西に細長い形をしている。

調査区は、基準点測量を行い、この点に基づき、調査区の南西側に原点を設け、そこから10m四方のグリッドを設定した。西から東に1～6、南から北へＡ～Ｅとグリッド名をつけた。

耕作土が20～30cmほど堆積しており、人力により遺構確認面まで掘削していった。その後丁寧に遺構の確認を行った。遺物は出土原位置で光波測量機による記録・取り上げ作業を行った。遺構内の遺物については、その遺構出土のものとして取り上げていった。

遺構は土層断面・遺構平面図を簡易遣り方による手実測、または光波測量器により図化した。全体図は空中写真測量で図化した。また、調査の状況に応じて写真撮影を行った。

調査後は続けて整理作業に入り、平成17年３月に完了した。

発見された遺構は、縄文時代中期末～後期初頭と考えられる竪穴住居跡１軒、土坑７基、ピット10基、時期不明の溝３条である。

３．発掘調査組織

発掘調査組織は以下のとおりである。

《～平成16年10月31日》

事業主体　長坂町教育委員会

事 務 局　教育長　小尾章臣（兼教育課長事務取扱）

　　社会教育係長　輿石君夫

　　調査担当　長谷川誠（教育委員会　学芸員）

《平成16年11月１日～》

事業主体　北杜市教育委員会

事 務 局　教育長　藤巻宣夫・小清水淳三

　　教育次長　小池光和

　　生涯学習課長　伏見武仁

　　整理担当　村松佳幸

　　（長坂郷土資料館担当兼文化財担当）

発掘作業員　秋山かつゑ　小尾トヨ子　國府田孝吉

　　小林　裕　小林立枝　清井義雄

　　名取初子　横山幸男

整理作業員　有野明子　井出仁美　清井ゆき枝

　　日向登茂子

第２章　遺跡周辺の環境

１．地理的環境

本遺跡は山梨県北杜市長坂町白井沢字西下屋敷地内に所在する。北杜市は、平成16年11月１日に北巨摩郡下の７町村が合併して出来た新しい市である。山梨県の北西部に位置し、八ヶ岳・甲斐駒ヶ岳・茅ヶ岳・瑞牆山等を含む広大な面積の市である。

その中で長坂町は八ヶ岳南麓に位置する南北約18km、東西約６kmの細長い町である。八ヶ岳の山体が崩壊し起こった韮崎岩屑流によって形成された台地上にあり、標高1,200m以上が急峻な山岳地帯になっており、それ以下は比較的緩やかな地形となり、八ヶ岳南麓高原や長坂台地、八ヶ岳南麓低地等が広がる。長坂町南端より南は、泥流台地を釜無川と塩川の浸食作用によって形成された通称七里岩と呼ばれる浸食崖が形成されている。

八ヶ岳南麓には、比較的多くの湧水があり、これを水源とする小河川が南流し、浸食作用によっていくつもの舌状台地を形成している。台地上は水利が悪いため、豊富な水量の湧水を引いて開発した潅漑用水や潅漑用溜池が数多く、県下で最も溜池の多い地域となっている。また、それを利用した水稲耕作が行われ、古くから八ヶ岳

南麓地域でも有数の水田地帯となっている。

本遺跡の所在する白井沢地区は、町中央の北寄りに位置し、東に鳩川、西に高川が南流し、南側を中央自動車道とＪＲ中央線が走っている。地区の北側には、比較的緩傾斜地が広がっているが、中央から南側にかけて八ヶ岳山体崩壊の際に出来た流山があり、起伏の激しい地形を呈している。

本遺跡は、高川左岸の台地平坦部に立地している。標高は約815ｍである。台地の幅は約150ｍで、扇形をしている。中央高速自動車道から約20ｍ北に離れたところが今回の調査区である。

２．歴史的環境

本遺跡がある白井沢地区は、中央自動車道建設に伴う発掘調査が行われている。

1973（昭和48）年、中央自動車道建設に先立ち下フノリ平遺跡・葛原遺跡・西下屋敷遺跡が発掘調査されている。山梨県教育委員会が調査し、遺構は発見されなかったが、下フノリ平遺跡から縄文時代中期の土器片と石器が、葛原遺跡から縄文時代中期と晩期末～弥生時代初頭の土器片と石器が、西下屋敷遺跡から縄文時代中期～後期の土器片と石器がそれぞれ出土した（末木1975）。また、西下屋敷遺跡の後期土器は、当時八ヶ岳南麓での発見が少なかったので、『信濃』で報告されている（末木・伊藤1976）。

1997（平成9）年～1998（平成10）年、中央自動車道八ヶ岳パーキングエリア改築に伴い、横針前久保遺跡・米山遺跡・横針中山遺跡が山梨県埋蔵文化財センターにより発掘調査された（村石他2000）。横針前久保遺跡から局部磨製石斧やナイフ形石器が発見され、山梨県でも最古級の約3万年前の遺跡と考えられ、当時話題となった。伊豆七島の神津島を原産とする黒曜石片も確認され、当時の人々の移動や交流の様子を知る手がかりとなった。現在、上り方面のパーキングエリア外壁には、さかいひろこ氏による旧石器人の壁画が飾られ、当時の生活の様子を想像させてくれる。

横針中山遺跡からは、地下式坑６基、竪穴２基、集石１基、土坑・ピット190基が発見され、渡来銭や中国青磁片が出土した。小ピットを伴う土坑も発見され、その中から灯明皿１点と古銭34枚が出土している。江戸初期に古刹「中山寺」があったと伝えられており、中央自動車道本線部分に五輪塔群があったこともあり、この付近は中世から近世の墓地と考えられている。

米山遺跡は、焼土が12ヶ所確認された以外遺構は発見されなかったが、縄文時代早期末～前期初頭・諸磯式・晩期末～弥生時代前期・中期の土器片が多数出土した。

本遺跡からやや離れるが同じ白井沢地区で、1986（昭和61）年に県営ほ場整備事業に先立ち糀屋敷遺跡が旧長坂町教育委員会により発掘調査されている。縄文時代の竪穴住居跡１軒、屋外炉８基、土坑25基、溝２条が発見されている。屋外炉は縄文時代後期の土器を伴うものが多い。１号溝からは茶臼の下臼が完全な形で出土している。

隣の地区になるが、本遺跡から南東方向に約800ｍ離れた所に越中久保遺跡がある。縄文中期後半の住居跡４軒、該期のものと思われる掘立柱建物跡２棟、土坑30基などが発見されている。特に土坑は中期末～後期初頭にかけてのものがあり、そのほとんどが低地に立地する貯蔵穴と考えられている。調査区から中期末～後期初頭の住居跡は発見されていないが、調査区周辺に存在する可能性が高いと思われる。

第３章　発見された遺構と遺物

１．基本層序

今回の調査区の層序は、耕作土である表土の下は黄褐色ローム層になり、それが地山で遺構が構築されている。一部その間に黒褐色土が入ってくるが、ごく狭い範囲である。調査区東側は重機による掘削で撹乱されており、この地を畑地にする際、かなりの削平を受けたと思われる。

２．住居跡

１号住居跡

（位置）Ｃ－２グリッドに位置する。

（重複）２号溝に切られている。

（規模）推定であるが、直径約６ｍになると思われる。

（形状）円形と考えられる。

（床面）硬化面は確認出来なかった。床面が削平されている可能性も考えられる。

（施設）住居中心部、調査区の壁に炉の北側半分が発見された。礫や埋甕等は確認できなかった。

ピットは６本確認されているが、その内の４本が柱穴と考えられる。

（遺物）第６図１～10。１～３・７・10は縄文後期の土器であろう。工具による削り痕が見られる。４・５は縄文中期末、６・８・９は縄文後期初頭称名寺式である。

第７図44・51。44は黒曜石製の石鏃である。51は打製石斧である。

（遺物出土状況）第４図下段。全体的に散在している。ほぼ床面からやや浮いた状態で出土している。住居跡の覆土はほとんど削平されているためであろうか。
（時期）１号住居跡から出土した土器は、すべて小片で大型破片や完形に近いものは出土していないが、ほとんどが中期末～後期初頭にかけてのものであるので、住居跡の時期もそれに該当すると考えられる。

３．土坑

１号土坑（第５図上段左）
（位置）Ｄ－２グリッドに位置する。
（規模）長径108.8cm、短径97.8cm、深さ19.6cmである。
（形状）不整な円形を呈する。２号土坑と重なる。
（遺物）土器片は出土しなかった。
（遺物出土状況）扁平な大礫が数点出土した。
（時期）不明である。

２号土坑（第５図上段左）
（位置）Ｄ－２グリッドに位置する。
（規模）長径97.7cm、短径79.5cm、深さ36.7cmである。
（形状）不整な円形である。
（遺物）第６図11。五領ヶ台式集合沈線文の土器片である。
（遺物出土状況）30cm大の礫が中央やや西寄りから出土している。
（時期）五領ヶ台式期であろう。

５号土坑（第５図下段左）
（位置）Ｃ－３グリッドに位置する。
（規模）長径119.5cm、短径99.7cm、深さ20.8cmである。
（形状）楕円形である。
（遺物）なし。
（時期）不明である。

６号土坑（第５図上段右）
（位置）Ｃ－４・Ｃ－５グリッドに位置する。
（規模）長径173cm、短径104cm、深さ38.7cmである。
（形状）不整な楕円形である。
（遺物）なし。
（時期）不明である。

７号土坑（第５図下段右）
（位置）Ｂ－４グリッドに位置する。
（規模）長径160.5cm、短径150.5cm、深さ50.6cmである。
（形状）不整な円形である。
（遺物）なし。
（時期）不明である。

４．溝

１号溝
（位置）Ｃ－２・Ｄ－２グリッドに位置する。
（規模）検出した長さ850cm、幅40～80cm、深さ５～15cmである。
（形状）南北方向にほぼ直線状にのびている。削平されたためであろうか、調査区内で途切れている。幅はあまり一定していないが、これも削平されたことによるものかもしれない。
（遺物）なし。
（時期）不明である。
（備考）現在の地割りに、位置はずれるがほぼ並行するので、区画溝の可能性が高い。

２号溝
（位置）Ｃ－１・Ｃ－２・Ｄ－１グリッドに位置する。
（規模）検出した長さ370cm、幅40～60cm、深さ５～15cmである。
（形状）北北西に向かって、やや東側にふくらみながら、弧を描くようにのびている。削平されたためであろうか、調査区内で途切れている。３号溝と並行している。
（遺物）なし。
（時期）不明である。
（備考）根拠はないが、３号溝と並行する溝なので、道の可能性もある。両者の間に硬化面は確認できていないが、削平されている可能性も考えられる。

３号溝
（位置）Ｃ－１・Ｄ－１グリッドに位置する。
（規模）検出した長さ230cm、幅40～70cm、深さ５～７cmである。
（形状）北北西に向かって、やや東側にふくらみながら、弧を描くようにのびている。２号溝と並行している。
（遺物）なし。
（時期）不明である。
（備考）根拠はないが、2号溝と並行する溝なので、道の可能性もある。両者の間に硬化面は確認できていないが、削平されている可能性も考えられる。

４号溝
（位置）Ｂ－３・Ｂ－４・Ｃ－４グリッドに位置する。
（規模）検出した長さ930cm、幅120～170cm、深さ７～

16cmである。

（形状）北東にほぼ直線状にのびている。南側の一部は重機による削平を受けている。

（遺物）なし。

（時期）不明である。

（備考）現在の地割りと重なるので、区画溝の可能性が高い。

5．遺構外出土遺物

第６図15・17・35は縄文後期の土器と思われる。16・23～25・27～32・34・39は縄文中期末、18は縄文中期、19は縄文中期初頭五領ヶ台式、20・21・43は縄文晩期、22・26・33・36～38・40～42は縄文後期初頭称名寺式である。

第７図45は凹基無茎の石鏃、46はつまみ部のある石錐、47は２次加工のある剥片、49・50は打製石斧、51は剥片、52は横刃形石器、53は敲打痕のある磨石、54は石核である。47は正面図上部に２次加工を施している。剥片を薄くしようとしたと考えられるが、その剥離の末端は階段状になっており、薄くするのに苦労した様子がうかがえる。正面図下端部には刃こぼれのような微細剥離があり、削器のように使用された可能性がある。

調査区の出土状況を第８図に示す。遺物全体の出土傾向は、住居跡のある西側に多い。東側は特に重機による削平が激しく、遺物分布も散漫である。また、南側に多く出土するのは、わずかながらも南側に傾斜しているからかもしれない。

土器の時期別分布を見ると、やはり西側に多く出土する傾向がある。黒曜石や石器も同様である。調査区範囲の狭さや削平の激しさもあり断定できないが、この土地での活動の痕跡は少ないと考えられる。

第４章　調査の成果と課題

今回の調査は、1973（昭和48）年に中央自動車道建設時以来の発掘調査であり、第２次調査となる。２つの調査区は約50m離れており、今回の調査区が北に位置する（第２図）。73年調査の報告の折、その北側（今回の調査区がある付近）に、遺跡の主要地域が存在すると推定された（末木1975、末木・伊藤1976）。果たして、今回の調査で縄文中期末～後期初頭と考えられる住居跡が１軒確認でき、前述の推定を実証する結果となった。

しかし、その住居跡は、覆土がほとんどなく床面も削平されている可能性が考えられるなど、遺存状況が悪く、その周辺もかなり削平されていた。調査区外も同様と考えられ、本遺跡は後世の活動の影響により、遺存状況の悪い遺跡であるといえる。

出土した土器は縄文中期初頭、中期末～後期初頭、晩期のものであり、そのほとんどが中期末～後期初頭である。73年調査でも縄文前期末諸磯ｃ式、中期末～後期前半が出土し、その主体は中期末である（末木・伊藤1976）。よって本遺跡は中期末～後期初頭を主体とする小規模な集落跡で、前期末～中期初頭、晩期でも活動の痕跡を残している遺跡といえる。遺物が出土していない中期前葉～後葉、後期後半では本遺跡から生活の痕跡がなくなるのであるが、時期的な遺跡立地の差が、周辺遺跡と比較することによって見えてくるであろう。

また、本遺跡の主体時期である中期末～後期初頭を見てみると、東に約200m離れた所に新田森遺跡が、南東に約800mは離れた所に越中久保遺跡がある。新田森遺跡からは該期の住居跡が２軒、越中久保遺跡から該期の貯蔵穴と思われる土坑が発見されており、本遺跡と何らかの関わりがあった可能性が指摘できる。

【参考文献】

末木　健　1975『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－北巨摩郡長坂・明野・韮崎地内－』山梨県教育委員会

末木　健・伊藤恒彦　1976「山梨県長坂町西下屋敷遺跡の縄文後期土器」『信濃』第28巻　第６号　信濃史学会

小田澤佳之・櫻井真貴　1987『深草遺跡・別当十三塚遺跡・別当遺跡（第２次）・糀屋敷遺跡』長坂町教育委員会

長坂町誌編纂委員会　1990『長坂町誌』上巻　長坂町

小宮山隆　1997『小屋敷遺跡』長坂町教育委員会

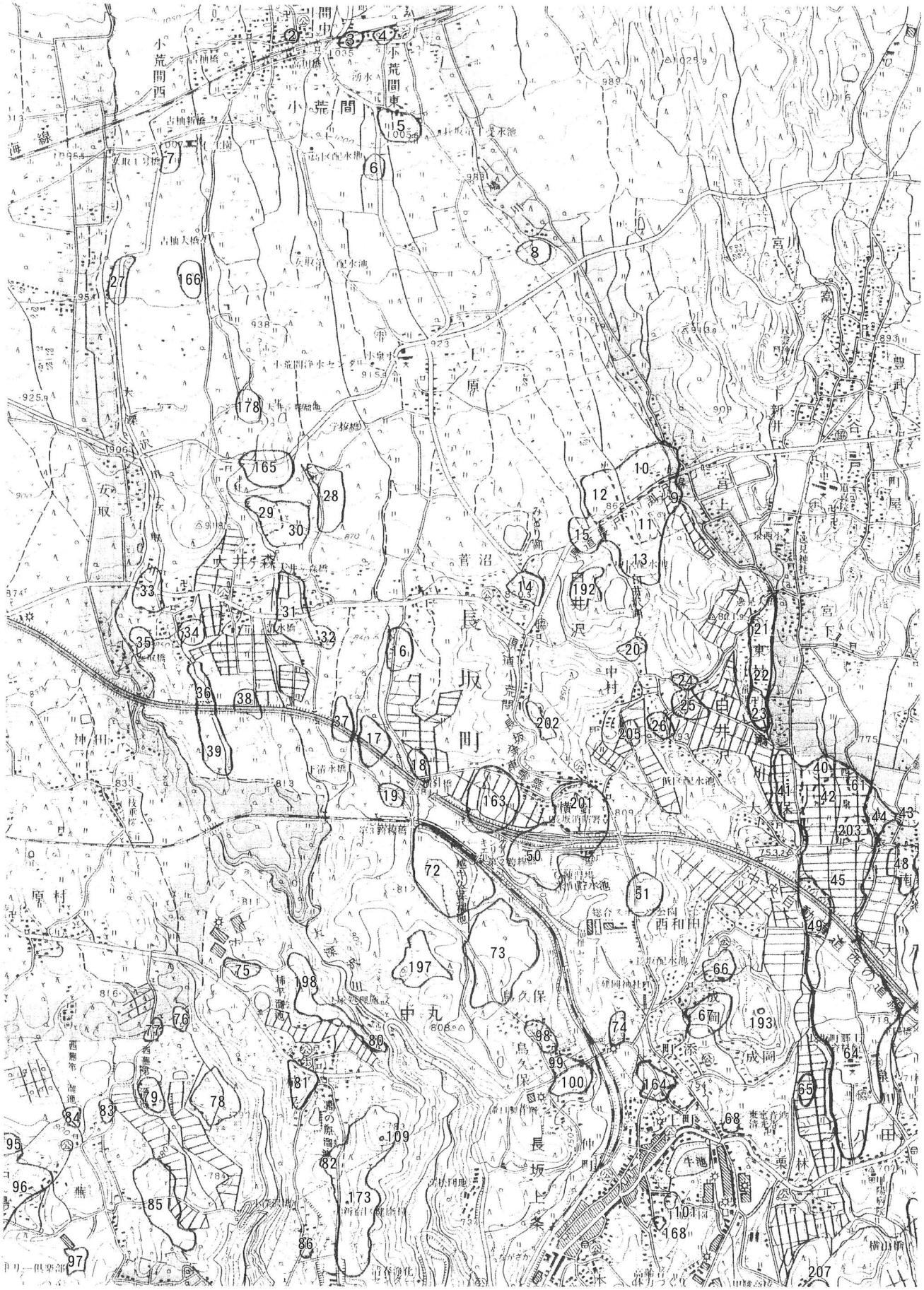
小宮山隆　1997『別当西遺跡』長坂町教育委員会

山梨県　1999『山梨県史』資料編２　原始・古代２　考古（遺構・遺物）　山梨日日新聞社

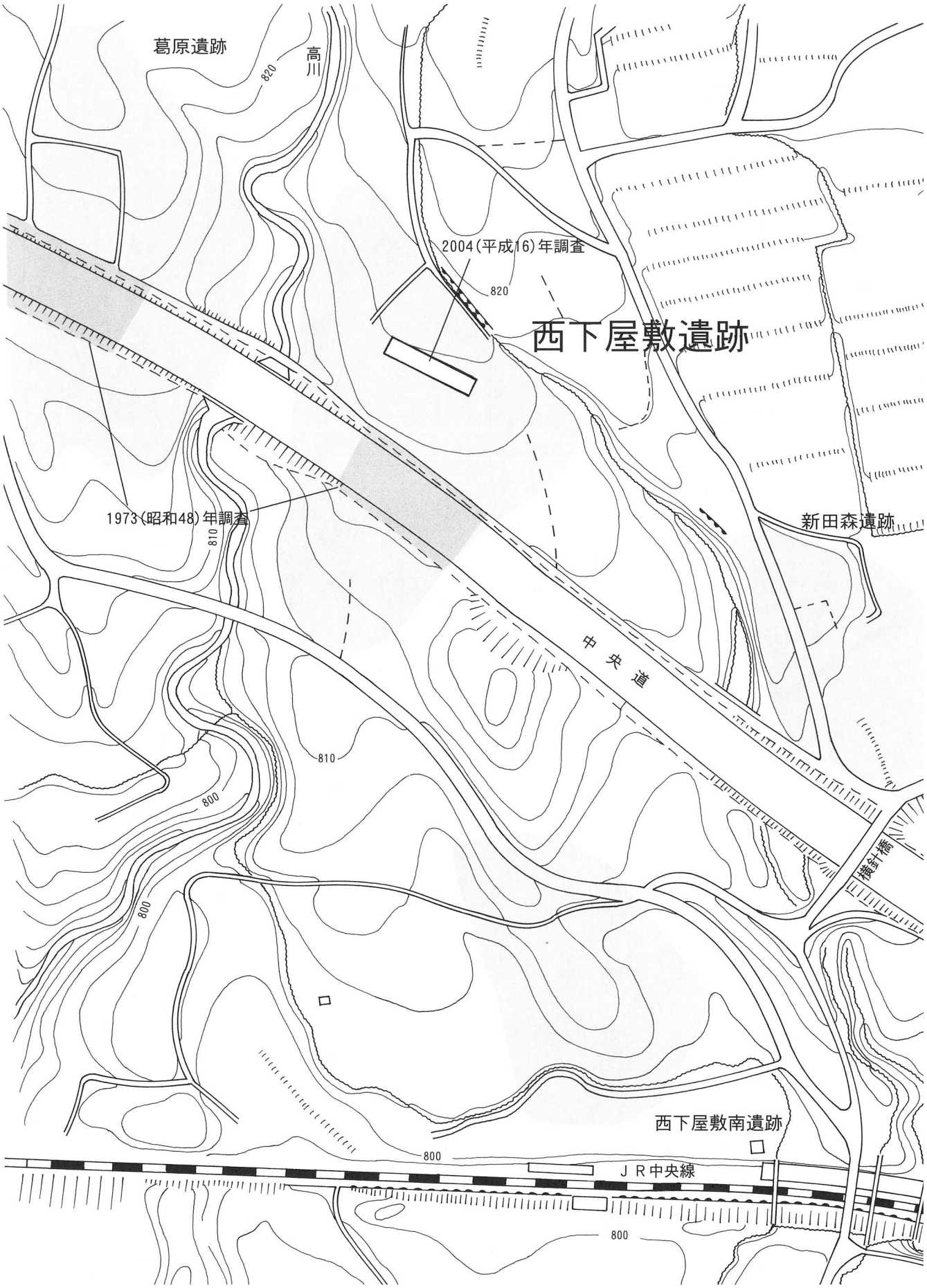
村松佳幸　1999『宮久保遺跡』長坂町教育委員会

村石眞澄他　2000『横針前久保遺跡・米山遺跡・横針中山遺跡』山梨県教育委員会

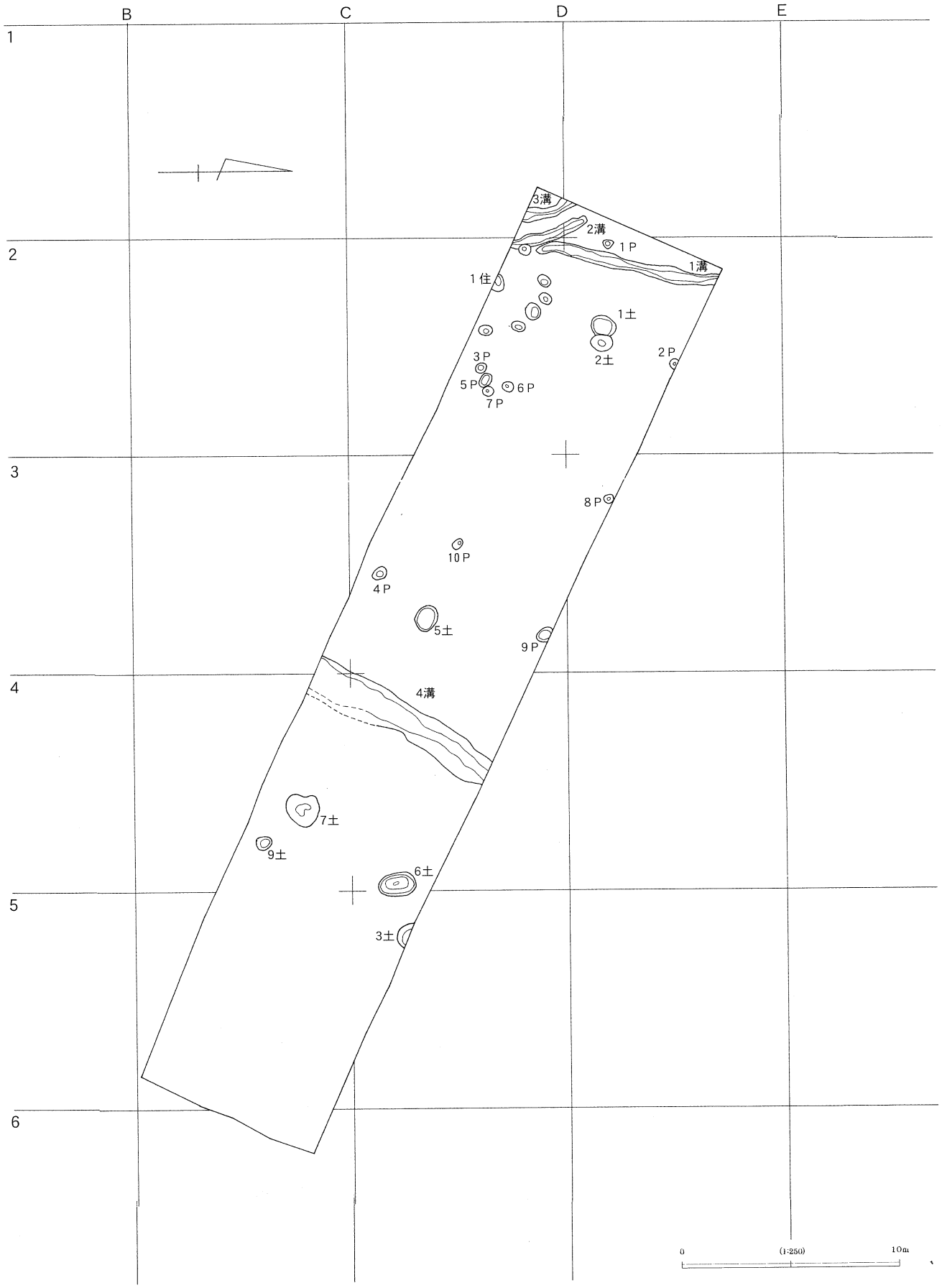
小宮山隆　2002『越中久保遺跡』長坂町教育委員会



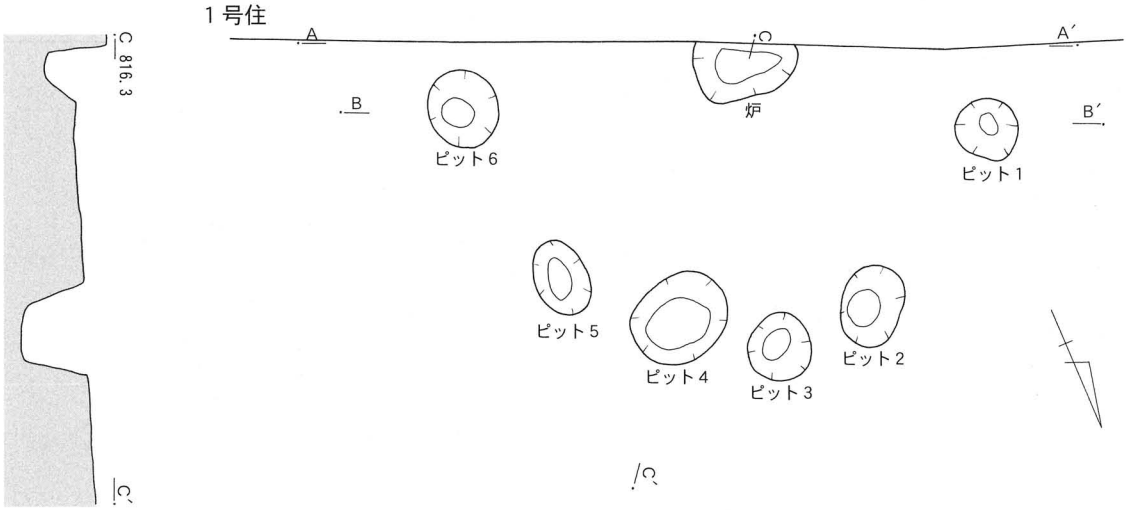
第１図　周辺の遺跡（１／25,000）



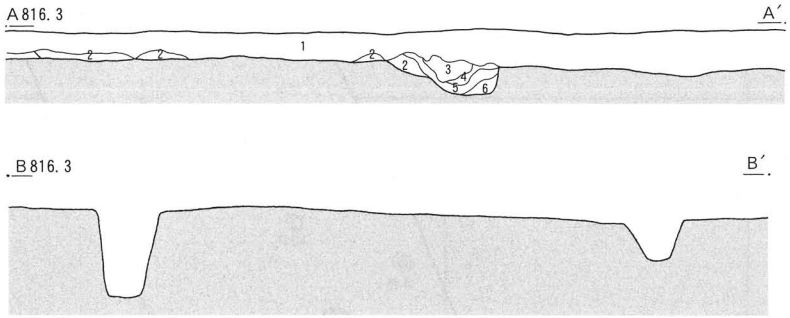
第２図　調査区配置図（１／２,５００）



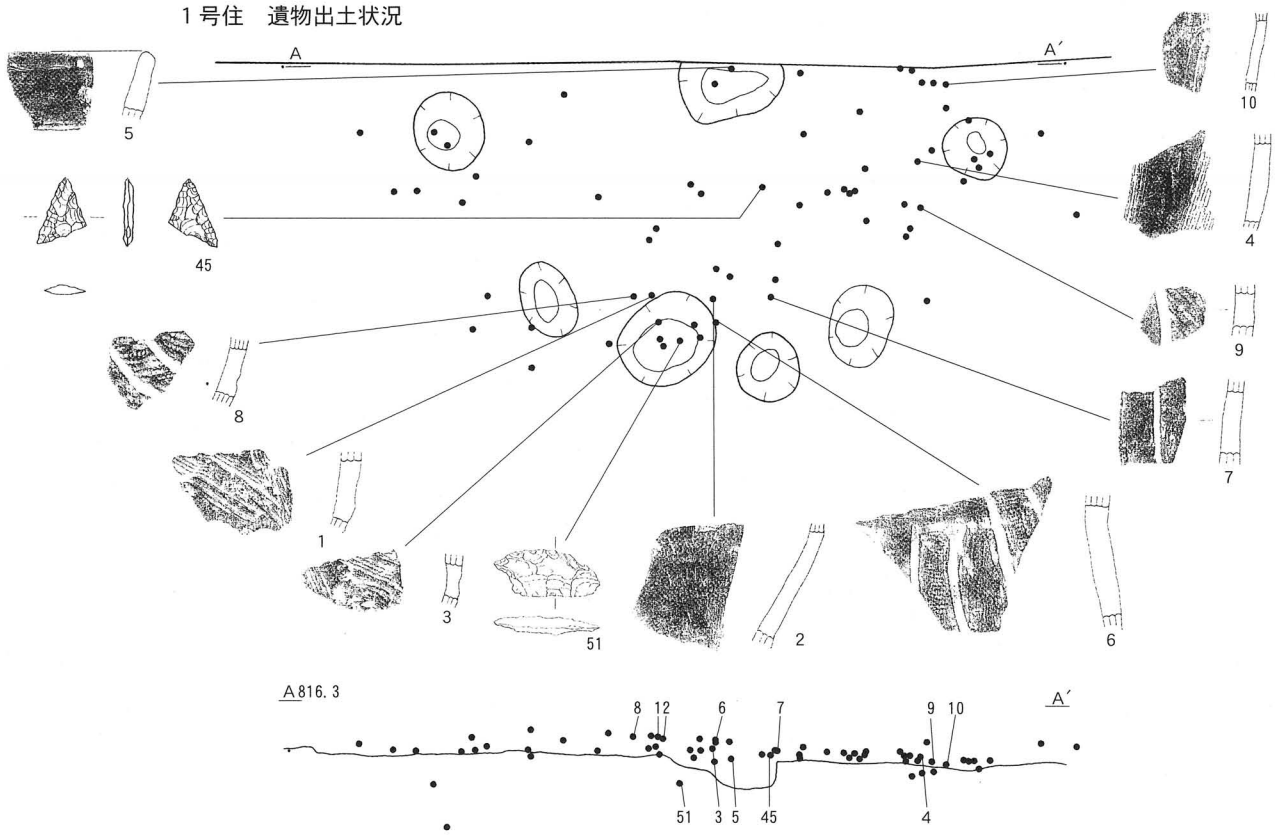
第３図　調査区全体図（１／250）



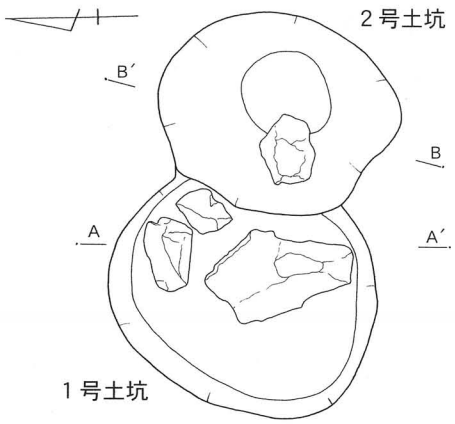
1号住
1．耕作土
2．黒褐色土　7.5YR3/2、しまりやや強い
　　粘性やや弱い
3．暗赤褐色土　5YR3/4、しまりやや弱い、粘性弱い
　　φ5～30㎜ローム粒子20%
4．暗褐色土　7.5YR3/4、しまりやや強い、粘性弱い
　　φ1～10㎜炭化物粒子8%
　　φ1～10㎜ローム粒子10%
5．褐色土　7.5YR4/4、しまり弱い、粘性弱い
6．褐色土　7.5YR4/6、しまり弱い、粘性やや弱い
　　φ1～5㎜炭化物粒子3%
　　φ1～10㎜ローム粒子8%

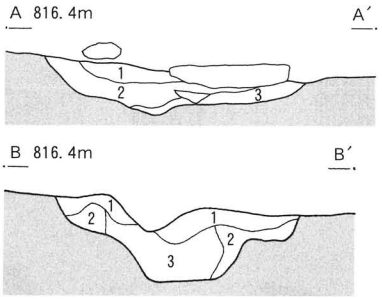


1号住　遺物出土状況



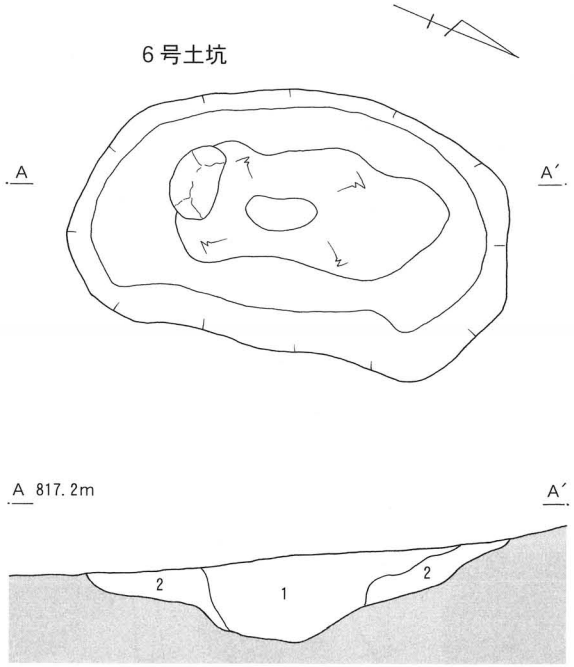
第4図　1号住居跡



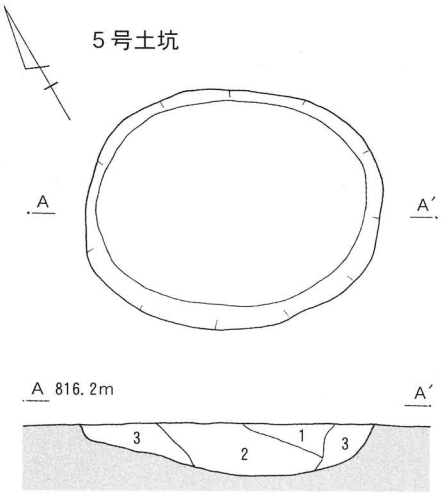


1号土坑
1．にぶい黄褐色土　10YR4/3、しまりやや強い、粘性やや強い　φ1～5mm炭化物粒子3％
　　φ1～3mmローム粒子2％、φ1～2mm焼土粒子1％
2．褐色土　10YR4/4、しまり強い、粘性やや強い　φ1～2mm炭化物粒子1％
　　φ1～3mmローム粒子2％
3．褐色土　10YR4/6、しまりやや弱い、粘性強い　φ1～2mmローム粒子1％

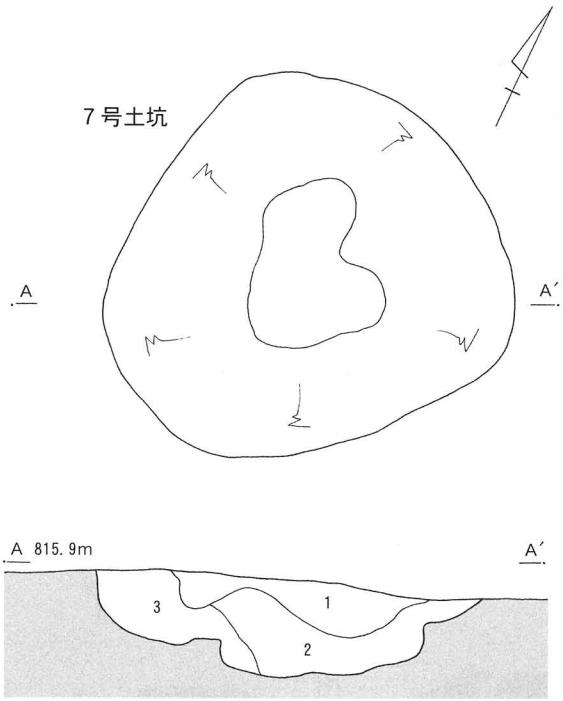
2号土坑
1．黒褐色土　7.5YR3/2、しまりやや強い、粘性やや強い
2．黒褐色土　7.5YR3/2、しまりやや弱い、粘性やや強い
3．暗褐色土　7.5YR3/3、しまり強い、粘性強い　φ1～2mm焼土粒子1％



6号土坑
1．黒褐色土　7.5YR3/2、しまり強い、粘性やや強い　φ5～10mmローム粒子5％
2．暗褐色土　7.5YR3/3、しまりやや強い、粘性強い　φ5～20mmローム粒子30％

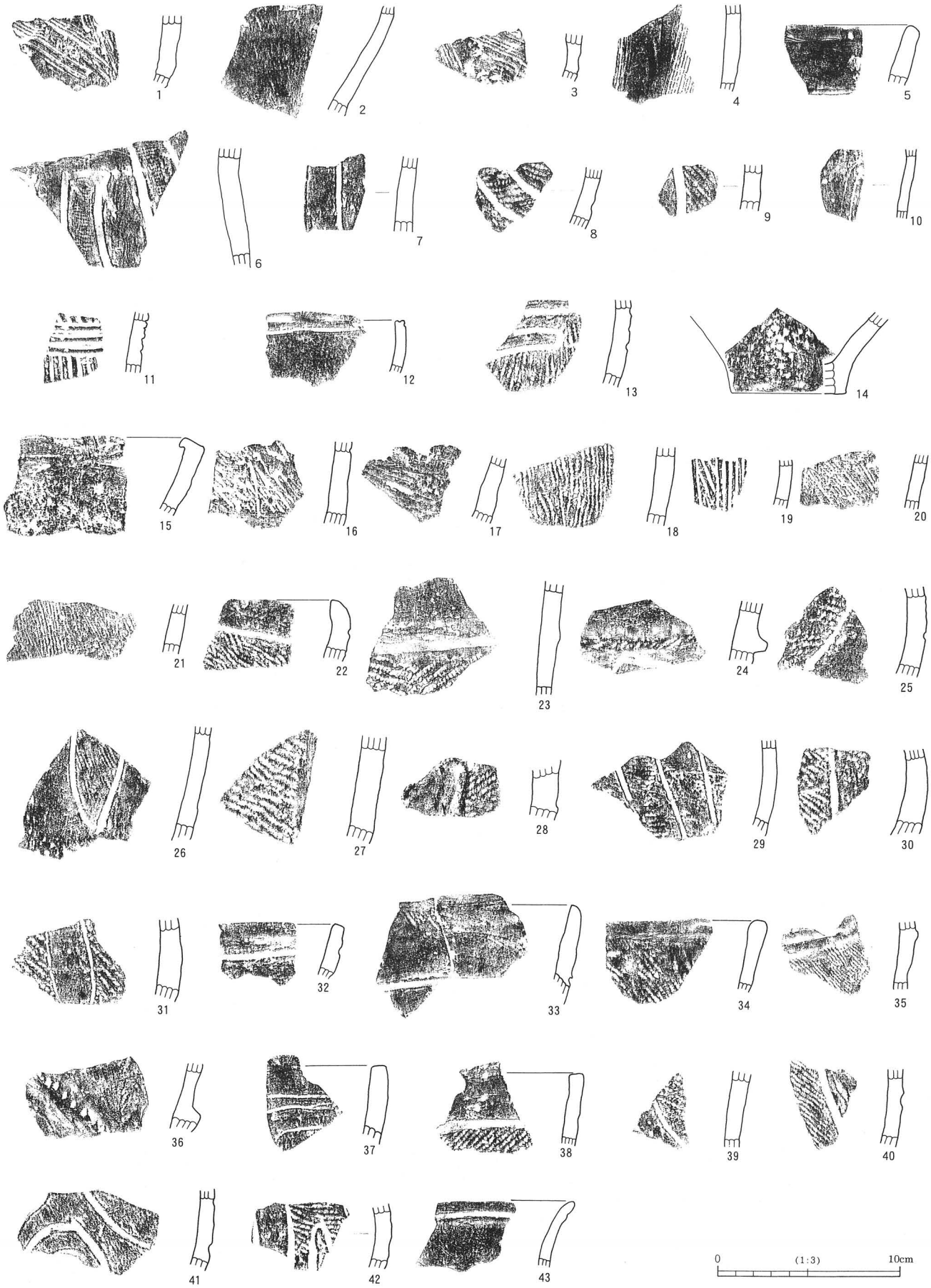


5号土坑
1．暗褐色土　10YR3/3、しまりやや強い、粘性やや弱い　φ1～3mmローム粒子4％
2．暗褐色土　10YR3/3、しまりやや強い、粘性やや弱い　φ1～2mm炭化物粒子1％
　　φ1～8mmローム粒子10％
3．暗褐色土　10YR3/3、しまりやや強い、粘性やや弱い　φ1～2mmローム粒子3％



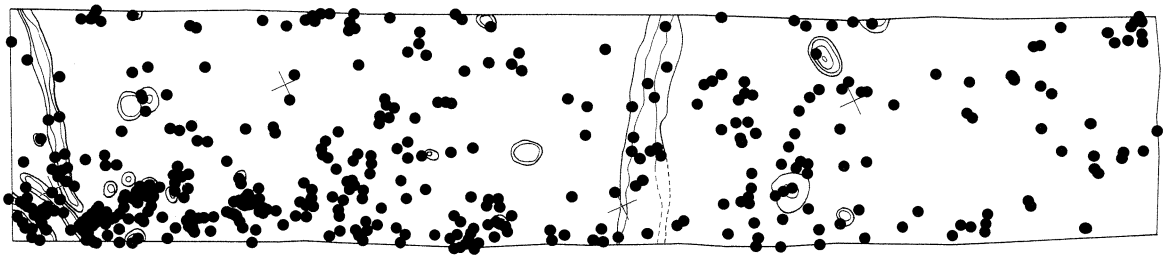
7号土坑
1．暗褐色土　7.5YR3/3、しまり強い、粘性やや強い　φ3～10mmローム粒子3％
　　φ1mm焼土粒子2％
2．暗褐色土　7.5YR3/4、しまり強い、粘性やや強い　φ5～15mmローム粒子4％
3．暗褐色土　10YR3/4、しまり強い、粘性強い　φ5～20mmローム粒子10％

第5図　土　坑

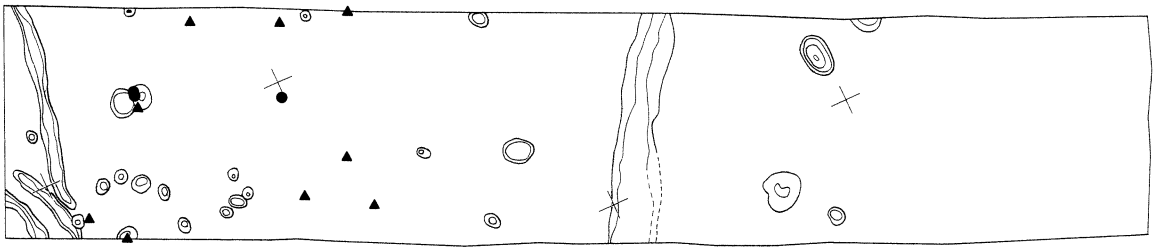

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
0
(1:3)
10cm

第6図　出土土器

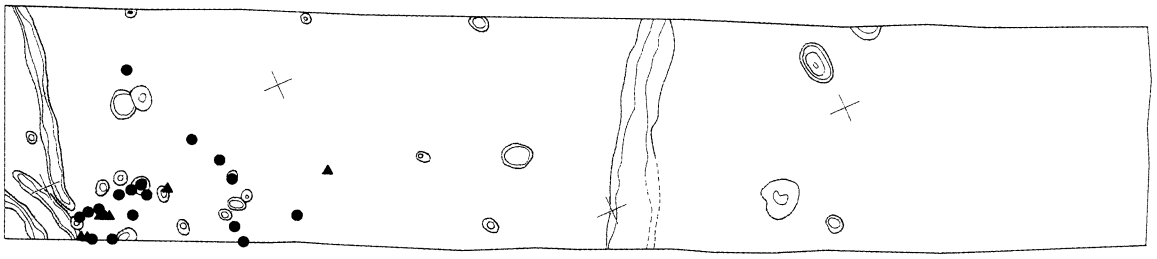
第７図　出土石器



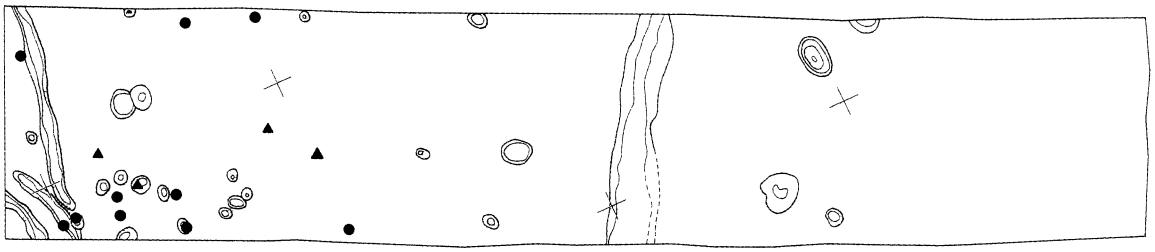
遺物全体



中　　期　●＝初頭　▲＝後半



後　　期　●＝初頭　▲＝前半



●＝黒曜石、▲＝石器

第８図　遺物分布

第１表　周辺遺跡一覧表

002	法性寺前遺跡　縄　中	033	上フノリ平北遺跡　縄	080	和手山東遺跡　中
003	信玄原遺跡　縄	034	上フノリ平遺跡　縄	081	小尾平遺跡　旧石　縄　中
004	小荒間古戦場跡　戦国	035	上フノリ平西遺跡　縄	082	間の原遺跡　縄
005	桜畑遺跡　平　江戸	036	下フノリ平北遺跡　縄	083	西蕪東遺跡　平
006	小泉遺跡　江戸	037	葛原遺跡　縄　弥	084	西蕪遺跡　縄
007	菅間遺跡　縄	038	下フノリ平遺跡　縄	085	西蕪南遺跡　縄　平
008	桜畑南遺跡　縄	039	下フノリ平南遺跡　平	086	和手遺跡　縄　平
009	糀屋敷東遺跡　縄	040	別当遺跡　縄	095	狐平北遺跡　縄　平
010	糀屋敷北遺跡　縄	041	別当西遺跡　縄	096	狐平遺跡　縄　平
011	糀屋敷遺跡　縄	042	別当十三塚　中	097	大平遺跡　縄　平
012	牛久保遺跡　縄　弥	043	南新居北遺跡　縄　平　中	098	下鳥久保遺跡　縄
013	牛久保南遺跡　縄	044	深草館跡　戦国	099	鳥久保遺跡　縄　江戸
014	沢入遺跡　菅沼氏館跡　縄	045	小和田遺跡　縄　平　中	100	高松遺跡　縄
015	苧干平遺跡　縄	048	南新居西遺跡　平	109	柿平・藤塚
016	東下屋敷遺跡　縄	049	小和田館跡　平　戦国　江戸	163	横針中山遺跡　中
017	**西下屋敷遺跡　縄　中**	050	米山遺跡　縄　弥	164	大林遺跡　旧石　縄　平　江戸
018	新田森遺跡　縄	051	米山東遺跡　縄	165	中込遺跡　縄
019	西下屋敷南遺跡　縄	061	原田遺跡　縄　平	166	手白尾東遺跡　縄
020	横手遺跡　縄　中	064	小屋敷遺跡　縄　平　中	168	上町南遺跡　縄
021	神ノ原遺跡　縄	065	久保地遺跡　縄	173	新宿区健康村遺跡　旧石　縄　平　中　江戸
022	屋敷附遺跡　縄　中	066	成岡遺跡　縄　弥　平　中	178	中込北遺跡　縄
023	内城遺跡　縄	067	成岡新田遺跡　弥　平　中	192	苧干平の土塁
024	十郎林遺跡　縄　中	068	曲田遺跡　縄　平	193	成岡・藤塚
025	阿原遺跡　平	072	越中久保遺跡　縄　平　中　江戸	197	竹原遺跡　縄　中　江戸
026	中尾根遺跡　縄	073	久保遺跡　縄	198	天白砦跡　中　戦国
027	手白尾遺跡　縄	074	房屋敷遺跡　縄　江戸	201	横針前久保遺跡　旧石　縄
028	夫婦岩遺跡　縄	075	池ノ平遺跡　縄	202	横針宮久保遺跡　縄　平
029	横山１遺跡　縄	076	東蕪３遺跡　平	203	深草遺跡　平
030	横山２遺跡　縄	077	東蕪２遺跡　縄　平	205	中田遺跡　縄
031	横山平南遺跡　縄	078	東蕪４遺跡　縄　平	207	池之窪遺跡　縄　平
032	葛原北遺跡　縄	079	東蕪１遺跡　縄　平		

第２表　土坑・ピット一覧表

遺構名	出土位置	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	時　期	備　考
1号住　ピット1	C-2	54	49	30.3		
1号住　ピット2	C-2	66	48	34.8		
1号住　ピット3	C-2	58.5	49	35.6		
1号住　ピット4	C-2	80	67.5	51		打製石斧1点（第7図48）出土
1号住　ピット5	C-2	62	40.5	31.2		
1号住　ピット6	C-2	64	55	50.6		
1号土坑	D-2	108.8	97.8	19.6		
2号土坑	D-2	97.7	79.5	36.7	縄文　中期初頭	五領ヶ台式の土器片2点（第6図11）出土
3号土坑	C-5	122	(58)	29.3		
4号土坑	B-4	72	65	25.7		
5号土坑	C-3	119.5	99.7	20.8		
6号土坑	C-4, C-5	173	104	38.7		
7号土坑	B-4	160.5	150.5	50.6		
1号ピット	D-2	53	50	37.8	縄文　晩期	縄文晩期の土器片出土（第6図12）
2号ピット	D-2	55	138	33.2		
3号ピット	C-2	54	46	22.8	縄文　後期	縄文後期の土器片4点出土
4号ピット	C-3	74	58.5	33.1		
5号ピット	C-2	71	52	19.7	縄文　後期	縄文後期の土器片2点出土
6号ピット	C-2	55	50.5	27.7	縄文　後期	縄文後期の土器片2点（第6図13）出土
7号ピット	C-2	51	46	27.6	縄文　後期	縄文後期の土器片1点出土
8号ピット	D-3	49	43	31.3	縄文	縄文土器片3点（第6図14）出土
9号ピット	C-3	84	61	18.2		
10号ピット	C-3	57.5	42.5	22.4		

（　）は残存値

第３表　土器観察表

図	番号	出土遺構	時期	型式	特　　徴	重量	色　　調	胎　　土
第６図	1	１号住	縄文後期？	—	木端状工具のケズリ痕明瞭	26.6	（外）にぶい褐、明褐　（内）にぶい褐、黒褐	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	2	１号住	縄文後期？	—	ケズリ痕あり	32.3	（外）にぶい褐　（内）にぶい褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	3	１号住	縄文後期？	—	木端状工具のケズリ痕明瞭	17	（外）にぶい褐　（内）にぶい褐、黒褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	4	１号住	縄文中期末	—	櫛歯状工具による条線	21	（外）暗褐　（内）にぶい赤褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	5	１号住	縄文中期末	—	口縁部下に横位沈線	16.6	（外）暗褐　（内）にぶい赤褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	6	１号住	縄文後期初頭	称名寺式	磨消縄文	72.6	（外）にぶい褐、褐　（内）灰黄褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	7	１号住	縄文後期	—	縦位沈線	17.2	（外）にぶい黄褐　（内）明褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	8	１号住	縄文後期初頭	称名寺式	磨消縄文	15.4	（外）にぶい黄褐　（内）明褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	9	１号住	縄文後期初頭	称名寺式	磨消縄文	11.1	（外）にぶい黄褐　（内）橙	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	10	１号住	縄文後期？	—	沈線	7	（外）にぶい黄橙　（内）橙	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	11	２号土坑	縄文中期初頭	五領ヶ台式	集合沈線文	12.5	（外）にぶい赤褐　（内）褐	長石、石英、金雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	12	１号ピット	縄文晩期	—	口唇部沈線、口縁部直下に横位沈線	16	（外）褐、灰黄褐　（内）黒褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	13	６号ピット	縄文後期	—	縄文、沈線	23.8	（外）にぶい黄褐、黒褐　（内）灰黄褐	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	14	８号ピット	縄文後期？	—	無文	38.3	（外）明褐　（内）明赤褐	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	15	遺構外	縄文後期？	—	無文	41.6	（外）明褐　（内）明赤褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	16	遺構外	縄文中期末	—	縄文、縦位沈線	31.6	（外）灰褐、にぶい黄橙　（内）黄灰	長石、石英、黒雲母、金雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	17	遺構外	縄文後期？	—	木端状工具のケズリ痕明瞭	20.9	（外）橙、黒褐　（内）黒褐	長石、石英、黒雲母、金雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	18	遺構外	縄文中期	—	縄文	33.7	（外）にぶい黄橙　（内）灰黄褐	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、白色粒子
第６図	19	遺構外	縄文中期初頭	五領ヶ台式	集合沈線文	8.6	（外）明赤褐　（内）にぶい黄褐	長石、石英、金雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	20	遺構外	縄文晩期？	—	条痕文	28.2	（外）橙　（内）明褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	21	遺構外	縄文晩期？	—	条痕文	16	（外）明赤褐、にぶい褐　（内）にぶい赤褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	22	遺構外	縄文後期初頭	称名寺式	縄文、口縁部下に横位沈線	23.5	（外）にぶい黄橙、にぶい黄褐　（内）にぶい黄橙	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	23	遺構外	縄文中期末	—	縄文、微隆起線	55.7	（外）明赤褐　（内）にぶい黄褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	24	遺構外	縄文中期末	—	隆線、隆線上に縄文施文、沈線	43.1	（外）橙　（内）橙	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	25	遺構外	縄文中期末	—	縄文、沈線	28.4	（外）褐灰　（内）にぶい黄褐	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	26	遺構外	縄文後期初頭	称名寺式	磨消縄文	47.9	（外）にぶい橙　（内）にぶい橙、褐灰	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	27	遺構外	縄文中期末	—	縄文	39.2	（外）にぶい黄橙　（内）にぶい橙	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	28	遺構外	縄文中期末	—	縄文	31.2	（外）にぶい黄橙　（内）にぶい橙	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	29	遺構外	縄文中期末	—	縄文、沈線	34.2	（外）にぶい橙、灰褐　（内）にぶい黄褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	30	遺構外	縄文中期末	—	縄文、沈線	31.2	（外）にぶい黄橙　（内）にぶい黄橙	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	31	遺構外	縄文中期末	—	縄文、沈線	37.9	（外）灰黄褐　（内）にぶい黄褐、灰黄褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	32	遺構外	縄文中期末	—	口縁部下に横位沈線	14.2	（外）にぶい黄褐、にぶい黄橙　（内）にぶい黄橙	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	33	遺構外	縄文後期初頭	称名寺式	口縁部下に横位沈線、ケズリ痕あり	47.4	（外）にぶい黄橙　（内）灰黄褐	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	34	遺構外	縄文中期末	—	縄文	11.4	（外）橙　（内）橙	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、白色粒子
第６図	35	遺構外	縄文後期？	—	縄文、横位隆線	19.7	（外）にぶい黄橙　（内）にぶい黄橙	長石、石英、黒色粒子、白色粒子
第６図	36	遺構外	縄文後期初頭	称名寺式	隆線、隆線上に刺突文	22.4	（外）灰黄褐、にぶい褐　（内）にぶい黄褐	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、白色粒子
第６図	37	遺構外	縄文後期初頭	称名寺式	横位沈線	19.8	（外）灰黄褐、にぶい褐　（内）にぶい橙	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	38	遺構外	縄文後期初頭	称名寺式	縄文、口縁部下に横位沈線	19.7	（外）にぶい褐、灰黄褐　（内）にぶい黄橙	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	39	遺構外	縄文中期末	—	縄文地文、沈線	33.9	（外）にぶい橙　（内）にぶい橙	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	40	遺構外	縄文後期初頭	称名寺式	磨消縄文	16.8	（外）明褐　（内）にぶい黄橙	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	41	遺構外	縄文後期初頭	称名寺式	沈線	33.3	（外）にぶい橙、にぶい黄橙　（内）にぶい黄褐、にぶい黄橙	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	42	遺構外	縄文後期初頭	称名寺式	磨消縄文	23.2	（外）にぶい黄橙　（内）にぶい黄橙	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子
第６図	43	遺構外	縄文晩期	—	壺形、口縁部に浮線文	15.7	（外）にぶい橙、灰黄褐　（内）灰黄褐、にぶい橙	長石、石英、金雲母、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子

第４表　石器観察表

図	番号	器　種	石　材	出土位置	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	備　　考
第７図	44	石鏃	黒曜石	１号住	1.7	(1.3)	0.3	0.3	片脚部欠損
第７図	45	石鏃	黒曜石	遺構外	1.4	1.3	0.3	0.2	
第７図	46	石錐	黒曜石	遺構外	2.5	1.8	0.7	2.5	
第７図	47	２次加工のある剥片	黒曜石	遺構外	2.6	2.2	0.6	3.1	微細剥離あり、削器？
第７図	48	打製石斧	凝灰岩	１号住ピット４	8.3	3.7	1.5	32.3	
第７図	49	打製石斧	粘板岩	遺構外	(9.8)	5.2	2.7	139.3	
第７図	50	打製石斧	ホルンフェルス	遺構外	(8.2)	5.6	1.5	79.2	
第７図	51	剥片	安山岩	遺構外	(7.2)	4.0	1.1	28.7	
第７図	52	横刃形石器	凝灰岩	遺構外	6.7	4.7	1.1	32.1	
第７図	53	磨石類	安山岩	遺構外	13.9	6.1	4.8	572.0	敲打痕あり
第７図	54	石核	黒曜石	遺構外	3.9	3.4	2.6	33.4	

調査区全景（西から）

調査区全景（北から）

調査区全景（真上から）

1号住居跡

1号住炉跡

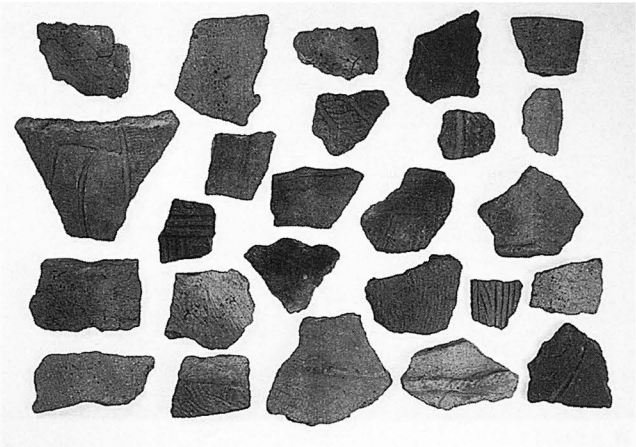
図版 2

5号土坑

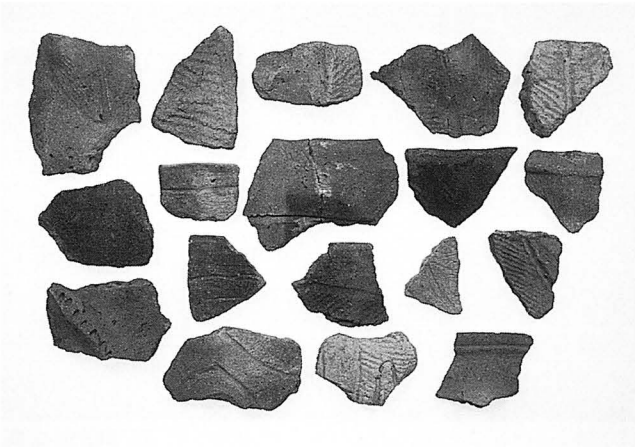
6号土坑

2・3号溝

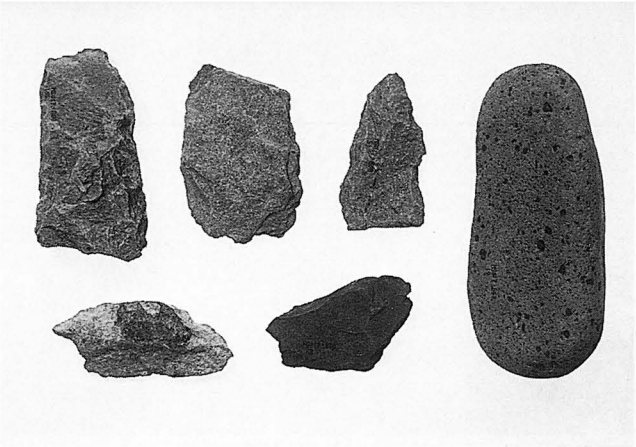
調査風景



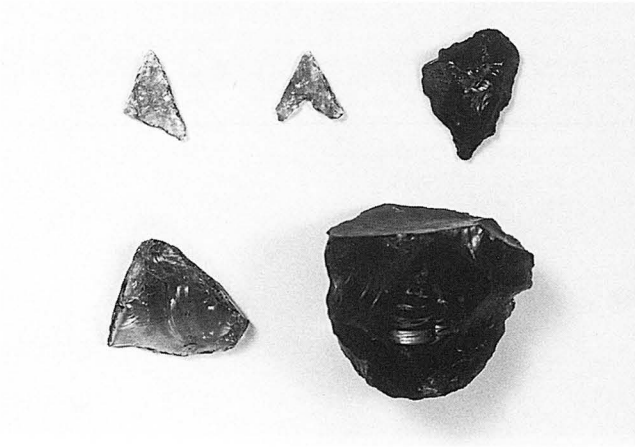
出土土器①



出土土器②



出土石器①



出土石器②

報告書抄録

ふりがな	にししもやしきいせき
書名	西下屋敷遺跡
副書名	田園交流基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	5
編著者名	村松佳幸
編集機関	北杜市教育委員会
所在地	〒408-0188　山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1　　TEL 0551-42-1373
発行年月日	2005年　3月　31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にししもやしきいせき 西下屋敷遺跡	やまなしけんほくとしながさか 山梨県北杜市長坂 ちょうしろいさわあざにししもや 町白井沢字西下屋 しき 敷	192091	4017	35° 50′ 57″	138° 21′ 27″	20040513～ 20040616	410	田園交流基盤整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西下屋敷遺跡	集落	縄文時代	住居跡1軒、土坑7基、ピット10基	縄文土器、石器、黒曜石片	

要約	縄文時代中期末～後期初頭の小規模な集落跡。

北杜市埋蔵文化財調査報告　第５集

西下屋敷遺跡

2005年３月25日　印刷
2005年３月31日　発行

編集・発行　北杜市教育委員会
〒408-0188
山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1
TEL　0551-42-1373
印　　刷　鬼灯書籍株式会社
〒381-0012　長野県長野市柳原2133-5
TEL　026-244-0235（代）